

きくまつり

11月9日（土）には、本校の創立を祝って学校の歴史をふり返る「きくまつり」が開催されました。まず初めに、体育館で「開校を祝う会」が開催されました。今年度は、本校の卒業生で、江戸小紋の伝統を守り続ける広瀬雄一さんをお招きして、お話を頂きました。寸分の狂いもなく、鮮やかに布を染めていく様子を見せて下さり、子ども達からは驚きの声が上がりました。

続けて、「きくまつりの集い」です。校庭中央の櫓を囲んで、全校児童がお客様と一緒に大泉音頭を踊りました。

次は、それぞれの生活団ごとに「きくの子汁」作りです。材料は、各生活団で春から一生懸命に育ててきた、とれたての野菜です。1年生から6年生が協力して、野菜を切ったり、飯盒でご飯を炊いたりします。かまどの煙対策でゴーグルをつける子が多いのは、本校の隠れた伝統です。どの生活団でも、美味しいきくの子汁ができたようです。保護者の皆様も交えて、みんなで楽しく仲良く頂きました。



お腹いっぱいになった後は、こちらも春から丹念に育ててきた菊の鑑賞会です。1～4年生は小菊を、5～6年生は大輪を、一人一鉢育ててきました。自らの菊作りをふり返り、菊の観賞カードに思いをまとめて発表しました。もちろん、中には残念ながら、途中で菊を枯らしてしまった子もいます。しかし、その悔しい気持ちを体験することも大切な学びです。その悔しい気持ちは、翌年の菊作りにしっかりと活かされることでしょう。児童の菊は、種を買ってきて育てたものではありません。先輩達が残してきた菊を挿し芽して育てたものです。菊作りは、ただ菊を育てるのではなく、命の営みの引き継ぎでもあるのです。

フィナーレを飾るのは、紙風船上げです。紙風船には、一人一人の夢が記されています。その夢が叶うことを祈って、色とりどりの紙風船が一斉に空に放たれました。一つも引っかかることなく、静かに秋空に吸い込まれていく紙風船を、子ども達はいつまでも見上げていました。

